



夢に向かってまっすぐに

令和2年4月27日 (No.16)



あせるまじ冬木を切れば芯の紅

香西 照雄



▲ 4/21～23「教科書等の配付」

例年であれば、今頃は、運動会に向けた練習が始まり、学校も一層活気に満ち溢れる躍動の時期のはずでした。しかし、昨年度末から続いている感染症の拡大も出口が見えず、連休明けにはどうなるのだろうか…と不安が尽きることがありません。季節はとうに春を迎えたとは言え、気持ちの中では今なお冬が続いています。葉を落とした冬木は、一見すると枯れたようにも見えますが、厳しい冬を耐え抜き、春の到来と共に力強く芽吹き、美しい花を咲かせます。まさに今、仙台、日本は冬の

時期かもしれません。しかし、きっと訪れる明るい明日のために、お互いに励まし合い、辛抱の時期を乗り越えていきたいところです。

臨時休業が長期にわたり、子供たちはもちろん、保護者の皆様の気持ちの中にも、やり場のない思いが積もり積もっていることとお察しいたします。お仕事での休業を余儀なくされたり、感染のリスクと向き合いながら、日々ご勤務をされたりしている皆様も多いかもしれません。特に、医療関係の皆様のご尽力には、心からの敬意と感謝の念に堪えません。それぞれ、置かれた状況は違えど、これ以上の感染症拡大を防ぐという目標では同じです。

私たちは、思い通りに進まない状況に置かれると、自分ばかりがどうしてこんなに苦しい思いをしなければならぬのだろうと考えてしまい、周りの人がうらやましくなったり、皆、敵に見えてしまったりすることがあります。しかし、周りの人も同じように苦悩していることが推察できれば、やり場のない怒りのような気持ちも、薄らいでいくのだと思います。

先日、臨時校長研修会が行われ、感染拡大防止に奔走されている賀来満夫先生のご講演を拝聴する機会を得ました。学校で授業が再開した際の予防のポイントについて、ご教示くださいました。ご講演の結びに「戦う相手はコロナであって、人ではない。差別や偏見をなくし、今こそ“人と人との連携協力”が最も重要です。」という言葉をくださいました。この感染症による社会的な危機を乗り越えるためには、学校だけの取組では、子供たちを守り切れません。ご家庭や地域の皆様と連携した取組を行うことで、子供たちの健康と安全につなげたいと思います。どうぞ、力をお貸しください。令和2年度もよろしく願います。

ランドセル弾み弾みて入学す（今泉 貞鳳）

4月21日～23日までの三日間で、令和2年度の教科書やお便り等をお渡しいたしました。本校では、保護者の皆様にお車で来校していただき、窓越しに受け渡しを行うという、前例のない方法で実施いたしました。感染症予防対策として重要とされている3密を回避するとともに、接触をできるだけ少なくすることもできると考えての方法でした。お子さんを連れて来てくださった方もいらっしゃいました。ある教員の言葉です。「子供たちのことを見たら、嬉しくて、涙が出てきてしまいました。普段、どれだけ子供たちから力をもらっていたか…。」保護者の方からは、複数件のお電話を頂戴しました。「こういう機会を作ってください、ありがとうございます。先生のお顔を拝見して、安心しました…。」こんな嬉しい言葉はありません。ソーシャルディスタンス、距離を取る…一見すると、人とのかわりを絶たなくてはならないような錯覚にとらわれます。しかし、そうではなくて、このような時だからこそ、相手を思う気持ち、気持ちを言葉で伝える大切さなどについて、子供たちとも考えていきたいと思えます。

新1年生の皆さんの中には、まだランドセルを背負っての登校が叶わずに、「本当に1年生になれるの？」と心配していたお子さんもいたそうです。真新しいランドセルを背負って、スキップでしょうか…。全身で喜びを表現しながら登校してくる新入生の皆さんを迎える日を思い浮かべて、準備を整えたいと思います。もう少しだけ楽しみは先に…。待っていてくださいね。

「ひまわりのように 夢に向かってまっすぐに 2020」

今回の感染症を形容するに「未曾有の…」「世界大戦以降最大の危機」などと表現されるほどの状況の中で、子供たちにどんな力を身に付けさせたらよいのか、健康な生活をどう守るか…自問自答することが多くありました。東日本大震災の記憶と経験がよみがえります。これまでの常識にとらわれない柔軟な発想、変化の激しさに対応する「しなやかさ」と「たくましさ」が必要です。子供たちが社会の担い手となる頃は、私たちの経験をはるかにしのぐ変化の激しい時代になることが予想されます。しかし、今、感じている恐れや不安、厳しく制限された生活を乗り越えた子供たちだからこそ「しなやかさ」と「たくましさ」を身に付けてほしいと願います。大雨や夏の暑さにも負けず、お日様に向かってまっすぐに伸び、大きな花を咲かせるひまわりのように育てていきたい思います。

また、児童の中には、感染症を克服するために精一杯頑張っているお子さんもおります。ご家族のご心配はいかばかりかと推し量り、胸が締め付けられるほどです。私たちは誰もが、感染リスクを抱えています。感染症を乗り越えたことを喜び合い、誰もが安心して登校することができるよう「あったか言葉」と「きらきら行動」で迎えたいと思います。教職員と子供たち、保護者の皆様の力を結集し、OneTeamで更に温かな学校にして参りましょう。

